

第40回

うつのみやこども賞だより

令和5年度 6回

市内5・6年生の選定委員さんたちが、月に4冊の本を読んで、年間で一番人気の高かった本に「うつのみやこども賞」を贈っています。

《今月選ばれた本》

『バスを降りたら』

眞島 めいり / 著 (PHP研究所)

～読んだ本の感想より～



令和5年11月5日

読めは
愉快だ
宇都宮

宇都宮市立図書館
UTSUNOMIYA CITY LIBRARY

- 中学受験に落ち、その気持ちを理解し、受けとめてくれる人がいて、とてもよかったと思った。バスのなかではいっしょでも、それぞれ考えていることはまったく別のように同じな所がよかった。
- 2人それぞれの気持ちが交互にあって、おもしろいなと思いました。律が受験に落ちてしまう気持ちが細かく書いてあって、共感できました。
- みんながんばっていて、すごいと思った。学校の紹介は難しそうだった。
- 律の、何ともいえない気持ちを志鳥君にうちあけて、志鳥君と一緒にプリントを完成させられてよかったなと思いました。
- 自分の気持ちををはっきりと伝えることは、難しいと思った。人には、他人には見せない裏の顔があるから、全部がいいのではないと分かった。でも、おたがいの心を分かり合えて、律はすごいと思った。
- バスの中での2人の気持ちとバスを降りた後の2人の気持ちの変化がすごく深かったです。

『あした、弁当を作る。』

ひこ・田中 / 著 (講談社)

- 女は家事、男は勉強という我が家の仕事の常識をくつがえそうとするタツキの姿が良いと思いました。親に反抗しながらも、母親の気持ちを考える所に感動しました。
- お父さんとお母さんに反対されながらも、自分で洗たくやお弁当を作るところがすごいと思った。
- 弁当を作りたい主人公と作らせたくない母と父のかけ引きが面白い！マシロやカホが主人公を応援していたのもかっこよかったし、共感ポイントがたくさんありました。友だちにすすめたいです。
- 私も最近、男の子が料理、おかし作りが好きと言っているのを聞いたことがある。そう、どうどうと言えることって、すてきだなと思った。
- 性別に関係なく、何をやりたいのか、好きなことをすればいいと思う。

『ペンタとニック』

風野 潮 / 作 (文研出版)

- リレーでは、できない人を置き去りにせずに作戦を考えているのがよかった。
- ペンタとニックの友情は、どんなに遠くはなれていても、とだえないといいなと思った。
- ペンタの頭の中に出てきた「ニック」は、ペンタのお母さんのお腹から出てきて、ペンタの心配をしているのかなと思った。
- 命ができることは、とても素晴らしいことであるということが、この本を読んで分かりました。

『カムイの大地』

泉田 もと / 作 (岩崎書店)

- 昔、北海道は「えぞち」とよばれていたことにびっくりした。アイヌ族の文化が書いてあってよかった。
- カムイの人たちに向き合い、力になろうと行動しているのがいいなと思った。
- ホケロウの正体があのオオカミだったことを知って、たけしろへの恩返しが出てよかったと思いました。
- アイヌの人々は和人(日本人)から無理に仕事をさせられたり、家庭の幸せをうばわれたり、だまされたり。和人って、こんな最低で、それが自分たちなんだ。と思い知らされました。